

ビーワンフェアリー

表示名称	配合目的	成分説明
水(ビーワン支給)	基剤	
B G	保湿剤	アセトアルデヒドを合成して得られる無色、無臭の液体で僅かに甘味がある。適度の湿潤性と抗菌力があり、皮膚に対する刺激も少ないので、化粧品として有用である。グリセリンよりもさっぱりした使用感が保たれ、べたつきも少ないので、各種クリーム、乳液、エアゾール製品、歯みがきなどに保湿剤として、また香料の保留剤として広く使用される。
グリセリン	保湿剤	最も古くから用いられてきた保湿剤であり、非常に吸湿性が強く現在でも多くの化粧品に使われている。グリセリンは保湿剤として製品の硬さや粘度を長期間一定に保持させる目的で使用される。また、皮膚に対する柔軟剤として、製品ののび、滑りを良くする。吸湿性を有し、皮膚に対して潤いを与え、しっとりとした感触を与える。グリセリンとヒアルロン酸ナトリウムを一緒に組み合わせると保湿の相乗効果が高まり、薄い皮膚を作り、外気の乾燥に左右されることなく皮膚の潤いをしっかり守る。
ペンチレングリコール	保湿剤	無色透明の液体で僅かなにおいがあり、水、エタノールによく溶ける。保湿剤として使用される。ポリオール的一种で、抗菌性に極めて優れており、防腐・殺菌目的にも利用される。
ミルクスフィンゴミエリン	保湿剤	ミルク由来のスフィンゴミエリンがリポソームの形になり、角質層、表皮、表皮の奥深い細胞に届きその細胞自身の力でセラミドへと代謝されます。そのため、角質層、表皮、表皮の奥深い部分でセラミドの生成が進み、バリア機能・保水機能を向上し、肌トラブルの改善と肌弾力を向上します。
コメヌカスフィンゴ糖脂質	保湿剤	コメヌカより抽出精製された植物性スフィンゴ糖脂質である。大豆リン脂質、B G、エタノールで分散させた製剤とリゾレシチン、水添レシチンで可溶化させた製剤。保湿剤、肌荒れ防止剤、細胞賦活剤として化粧品に用いられる。
水添レシチン	乳化剤	リン脂質を含む大豆に水素添加し、精製することで酸化安定性を増した大豆レシチン誘導体。天然レシチンに比べて熱や酸化に対する安定性に優れている。
リゾレシチン	乳化剤	レシチンを酵素により、アルキル鎖を一つ取り除いたものである。レシチンより親水性が増し、界面活性作用が強くなる。複合脂質の一種で、リポソーム同様、細胞膜の組成と非常によく似ているため、肌内部の細胞まで浸透し、細胞膜に取り込まれるように入り、保湿効果を高める。

表示名称	配合目的	成分説明
アセチルヒアルロン酸Na	保湿剤	スーパーヒアルロン酸と呼ばれ、従来のヒアルロン酸の水酸基をアセチル基で置換した構造をもっており、天然由来の保湿効果に優れたヒアルロン酸にアセチル基を導入することにより、使用感と角質柔軟効果がより向上した。例えば、アセチルヒアルロン酸Naの0.2%を含む化粧水で乾燥性の皮膚状態の改善が可能である。
ヒトオリゴペプチド-1	保湿剤	人間が本来持っている細胞を再生させるタンパク質の一種です。『h-EGF』を化粧品から皮膚に補給すると皮膚細胞の再生を促進し、肌に潤いやハリを与えます。この他にも細胞組織を活性化し、シミをなくし、色素沈着を防止、血管を修復し、血液の流れを良くし、コラーゲンを蓄積させる働きがあります。
マンニトール	保湿剤	自然界に最も多い糖アルコールである。ショ糖を還元して得られる白色の結晶または結晶性粉末で、においはなく、清涼な甘味を有する。化学的に安定で酸化されないため、ビタミン類の安定化、サミノ酸との褐変反応防止に役立つことから、これらを配合する化粧品に利用される。また、高級脂肪酸のエステルや高級アルコールとのエーテルが界面活性剤として利用されている。耐湿性で、爽快な甘味のあることから、食品における甘味剤として使われる他、チューインガム及び飴類の粘着防止などに利用される。
グリチルリチン酸2K	抗炎症剤	カンゾウ根から抽出して得られたグリチルリチンのカリウム塩の形にしたグリチルリチンの誘導体である。解毒作用、抗アレルギー、抗消化性潰瘍作用が認められている。皮膚科領域において、急性や慢性の皮膚炎に対して著しい効果を持つと言われている。副腎皮質ホルモンに比べて作用は緩和で、副作用はない。
ヒドロキシプロリン	保湿剤	微生物を使用した発酵法により製造される白色粉末である。ヒドロキシプロリンはコラーゲンの中にだけに多量に含まれており、他の一般のたんぱく質には見出されないアミノ酸である。従って、ヒドロキシプロリンの存在はコラーゲンの存在の証明でになる。コラーゲン中のヒドロキシプロリンは、プロリンがコラーゲンに合成された後、酸化されてヒドロキシプロリンになると考えられている。非必須アミノ酸で、プロリンと同様の構造をもっているが、水酸基をもっているためプロリンよりも酸化を受けやすい。コラーゲンと同等以上の保湿効果を示し、また、コラーゲンの産生や表皮細胞の増殖を促進するので、皮膚老化防止剤として化粧品に配合される。
カルボマー	増粘剤	水溶性高分子で、毒性及び眼粘膜、皮膚に対する刺激が殆どない。白色の粉末であり、水に分散して酸性を示す。これをアルカリで中和すると、透明な高粘度の溶液が得られる。天然ガム質と違い、増粘効果、品質の均一性、温度変化に対する粘度の安定性に優れ、皮膚上ではさらっとした感触が得られる。更に、微生物による汚染がされにくいことなどから、増粘剤として現在最も多く用いられている。

表示名称	配合目的	成分説明
水酸化K	pH調整剤	白色の小球、薄片または塊で、硬くもろい。希薄溶液は皮膚表皮を軟化させる作用がある。脂肪酸と結合して石けんとなり、クリーム、乳液などの乳化剤として使用される。化粧水のアルカリ剤として、またカリ石けんなどに用いられる。
フェノキシエタノール	防腐剤	グリコールエーテルの一種。僅かに芳香のある無色～淡黄色の透明、粘稠な液体である。殺菌作用があり、グラム陰性菌に対し特に有効である。化粧品の使用配合量は1.0%まで認められている。パラベンと組み合わせたり、デヒドロ酢酸と組み合わせで防腐成分として使用される。香水の保留剤としても使用される。
エタノール	溶剤・防腐剤	わずかに特有の芳香と焼けつくような味がある。無色透明な液体。化粧品には欠かすことのできない成分で、各種物質を溶解する性質があるので溶剤として多用される。また、清浄、殺菌、収れん、可溶化、乾燥促進などの目的でも配合される。